

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立寝屋川高等学校 全日制の課程・定時制の課程
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	1 全定相互協力の行事の実現 2 「いのちのメッセージ展」等学校内外に発信するイベントの実現 3 学校教育自己診断の生徒の「命や人権」にかかわる項目の肯定度向上 4 （全）学校教育自己診断の「自分の考えをまとめ発表」の項目の肯定率向上 5 （定）中途退学率の減少
計画名	寝屋川高校は一つ「いのち・きづなプロジェクト」 ～全日制定時制をつなぎ、そして地域から世界に発信する寝屋川高校～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>【全日制】</p> <p>2 能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する</p> <p>(1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む</p> <p>(2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う</p> <p>※ R1年度に「寝屋川高校は一つ「いのち・絆プロジェクト」～全日制定時制をつなぎ、そして地域から世界に発信する寝屋川高校～」をテーマに学校経営推進費の支援校に決定</p> <p>※ 食堂を活用した事業展開を進めるために改装 壁の塗装・ミーティング用可動式テーブル・椅子・遮光ロールスクリーンを設置(220万円) 生徒会全体の取組みを地域へ広げていく</p> <p>(3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神や国際感覚の育成を図る</p> <p>(4) 生徒のコミュニケーション能力、文章や情報を読み解き対話する力を向上させる取組みを充実させる</p> <p>(5) 社会貢献やボランティア活動、地域との連携、各種コンテストなどへの積極的参加の推奨</p> <p>(6) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進</p> <p>※ 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率(R2 90.7%)を令和5年度には92%にする。(H30/87%・R1/89.9%・R2/90.7%)</p> <p>※ 「自分の考えをまとめたり発表したりする機会」の肯定率(R2 84.9%)を令和5年度には92%にする。(H30/82%・R1/84.7%・R2/84.9%)</p> <p>【定時制】</p> <p>2 自尊感情の育成</p> <p>(1) 人としての倫理観や規範意識を確立する</p> <p>ア. 互いを認め、ともに高めあう人間性の育成</p> <p>イ. 命の大切さ、善悪の判断等について指導する</p> <p>※ 学校教育自己診断で「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」の肯定率(H30:79% R1:75% R2:83%)をR5年度には85%にする。</p>
------------------	---

<p>事業目標</p>	<p>(食堂フロアを活用した)「絆(きずな)空間」の整備 ～展示・プレゼン・ポスターセッション等の形で、集い発信できる空間の創設～ 本校は全日制・定時制2課程を有する学校であるが、生徒の活動という観点から見れば、まるで異空間であるかのような状況がある。同じ空間で学ぶ高校生としてお互いを認め合いその存在を十分理解できる取組みを進め、身近な存在をしっかりと理解したうえで、全定一体で時には課程ごとに地域へそしてグローバルに様々なメッセージを「絆(きずな)空間」を中心に発信していく。まずは寝屋川市が特に大切にしている「いのち」をテーマとした発信をする。 それらの取組みにより、他者を思いやりいのちを大切に作る心を育むとともに、コミュニケーション能力を高め他者とつながる「生きる力」を育成し、さまざまな世界へ打って出る気概を育てる。</p>
<p>整備した設備・物品</p>	<p>寝屋川高校「絆(きずな)空間」の整備(通用門直近の食堂フロアを整備) 遮光ロールスクリーン(1)、台形テーブル(24)、スタックチェア(66)、ホワイトボード(4)、大型冷風扇(3)、有孔ボード(1)</p>
<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>主担 「いのちの絆PT(全・定)」全定とも(教頭・首席・生徒会主担・生徒指導部・人権推進委員長・教職員有志)と生徒会役員 実施者については全教職員・全校生徒(全・定)</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>度重なるコロナの影響を受けて、計画していた事業のほとんどが実施できなかったが、もともとの計画を変更し、11月から外部の福祉団体と協議をして、全日制、定時制の生徒会との交流を実施。福祉団体の作業所の見学、協同事業として、焼菓子づくりに取り組んだ。コロナの状況が一層厳しい局面を迎えたこともあり、Webを活用した方法でそれぞれの生徒会より活動報告を実施。3月16日の終業式に協同企画として制作した焼菓子を食堂を活用して販売した。 また、定時制の文化祭の展示用の部屋としても食堂を活用した。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>○学校教育自己診断： (全)生徒の項目「人権について学ぶことがある」(R2 90.7%)⇒90%維持 「自分の考えをまとめたり発表する機会」(R2 84.9%)⇒85%維持 「学校行事に積極的に楽しく参加」(R2 90.9%)⇒90%維持 (定)生徒の項目「いのちの大切さ」(R2 83%)⇒83%維持 「学校行事は楽しい」(R2 72%)⇒74% ○定時制の中途退学率を前年度と比較して減少させる(R2 4.2%) ○全定合同の生徒会役員会の実施 年間2回</p>
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度もコロナ禍の交流実施は困難を極めた。昨年度まで実施していた双方の文化祭にあたる学園祭(全)や明月祭(定)、文化発表会において共同制作物の展示には至らなかった。しかしながら、年度後半に福祉作業所と連携を取ることができ、全定の合同生徒会企画で展示、製作物の販売を行った。 (全)「学校行事に積極的に楽しく参加」90.9%→92.3% (定)「学校行事は楽しい」72%→74%……………(◎) ●人権教育についても、オンライン形式で実施するなど、対面での実施ができず、肌感覚の重要性を改めて感じた。 「いのちや人権にかかわる項目」(全)90.7%→87.5%……………(△) (定)83%→87%……………(○) ●コロナ禍ではあったが、学校行事など様々な取組みで発表を試みた。 (全)学校教育自己診断の「自分の考えをまとめたり発表」の項目 84.9%→86.8%……………(◎) (定)中途退学率 4.2%→2.5%……………(◎)

事業のまとめ

今年度もコロナ禍で実施困難な場面が多かったが、今後も全定がそれぞれの課程で生徒会役員中心に相互理解と交流の意識を醸成し、「いのちの尊さ」をテーマに「いのちの絆プロジェクト」が高校生主体の活動となるよう、様々な面からのアプローチを行っていく。

それらにより、他者を思いやりいのちを大切にすることを育むとともに、コミュニケーション能力を高め他者とつながる「生きる力」を育成していく。

そのために、①全定合同生徒会活動の定例化

②学校行事の協働業務の模索

③寝屋川市との共同業務の模索

④地域との交流

を目標として取り組む。